

北岡伸一著「独立自尊—福沢諭吉の挑戦—」中公文庫、中央公論新社 2011年2月25日刊を読む

### 独立自尊—福沢諭吉の挑戦—

1. (1)大病以後、福沢はほとんど執筆は出来なかった。  
(2)その中で、最後に取り組んだのが、「**修身要領**」の作成である。  
(3)福沢は側近に語って、旧道徳は力を失ったが、新しい道徳はまだ現れていない、近年社会の風潮も乱れもそれに関係する、現在の時勢に適した徳教の標準を示すべきだとして、周囲にその案を作らせた。  
(4)それが「**修身要領**」である。
2. (1)それを貫く思想は、「**独立自尊**」であった。  
(2)小幡は先生の日ごろの言行を表すのにこれよりふさわしい言葉はないとして、多くの賛成を得た。  
(3)福沢が「**独立自尊**」という四字を使ったことは、実にこれまであまりなかったが、福沢をもっともよく知る小幡はこの言葉を選んだ。
3. 「**修身要領**」は前書き以外に二十九項目が箇条書きになっているが、そのうち十七箇条に「**独立自尊**」という言葉が使われている。
  - (1)第一に、「人は人たるの品位を進め、智徳を研ぎ、ますますその光輝を発揚するを以て本分と為さざるべからず。吾が党の男女は、**独立自尊**の主義を以て修身処世の要領と為し、これを服膺<sup>ふくよう</sup>して人たるの本分を全うすべきものなり」と述べられていて、「**独立自尊**」が主題であることを明らかにしている。
  - (2)まだ第二においては、「心身の独立を全うし自からその身を尊重して人たるの品位を辱めざるもの、これを『**独立自尊**』の人という」、
  - (3)第三に「自ら労して自から食うは人生独立の本源なり。**独立自尊**の人は自労自活の人たらざるべからず」という風に、冒頭にたたみかけるように「**独立自尊**」が強調される。それは、男女関係でも、子女の教育でも重視され、さらに成人してからの自己教育でも強調される。
  - (4)たとえば第十二に、「**独立自尊**の人たるを期するには、男女共に成人の後にも自から学問を勉め知識を開発し徳性を修養するの心掛を怠るべからず」とある。
4. そして**独立自尊**は、社会の構成原理としても重視される。
  - (1)第十三に「一家より数家次第に相集まりて社会の組織を成す。健全なる社会の基は一人一家の**独立自尊**に在りと知るべし」、
  - (2)第十四に「社会共存の道は、人々自から権利を護り幸福を求むると同時に、他人の権利幸福を尊重して 苟<sup>いやしく</sup>もこれを犯すことなく、以て自他の**独立自尊**を傷つけざるに在り」、

- (3)第十六に「人は自から従事する所の業務に忠実ならざるべからず。その大小軽重に論なく<sup>いやしく</sup> 苟も責任を怠るるものは**独立自尊**の人に非ざるなり」、
- (4)第十七に「人に交わるには信を以てすべし。己れ人を信じて人も亦己れを信ず。人々相信じて始めて自他の**独立自尊**を実にするを得べし」などがそれである。

5. そしてそれは国家においても重視される。

- (1)第二十四に「日本国民は男女を問わず、国の**独立自尊**を維持するが為めには、生命財産を賭して敵国と戦うの義務あるを忘るべからず」、
- (2)しかし他方で、第二十六には「地球上立国の数少なからずして、各その宗教言語習俗を殊にすと雖も、その国人は等しくこれ同類の人間なれば、これと交わるには、苟も軽重厚薄の別あるべからず。独り自ら尊大にして他国人を蔑視するは、**独立自尊**の旨に反するものなり」とある。

6. (1)かつて『**文明論之概略**』において、福沢は智徳の進歩を説いた。その努力は徳よりも智に向けられていた。
- (2)しかし智が一段落したところで、徳の方向に向かったのは当然であった。『自伝』(福翁自伝)においても、日本人を高尚に赴かせたいと述べている。
- (3)しかして、智と徳とを貫いていたのが、「**独立自尊**」であったのである。
- (4)この「**修身要領**」の中に、『**学問のすゝめ**』『**文明論之概略**』その他の福沢のさまざまな主張が、当時は文明開化を進めるための主張として展開されたものが、晩年のここに、ふたたび、今度は個人の道義という形で展開されている。
- (5)福沢においては、智徳は同根であったのである。

P307 ~ 309

<コメント>

慶應義塾の創設者、福沢諭吉が、晩年(亡くなる前年)に三田講演会で発表した「**修身要領**」29 箇条の中に、「**独立自尊**」が17 箇条掲げられている。この文章ほどわかりやすく、また、具体的に「**独立自尊**」を語ったものはないと思われる。是非、大いに学ばせていただこうではないか。

— 2017年10月3日(火) 林明夫 —